

令和5年第1回(3月)

篠栗町議会定例会

3月3日(一般質問)

令和5年 第1回 定例会 会議録

日時 令和5年3月3日 午前10時

場所 篠栗町役場 議事堂

出席議員

1番	岩下勝正	2番	藤木高裕	3番	横山和輝
4番	品川静	5番	古屋宏治	6番	田辺弘之
7番	栗須信治	8番	村瀬敬太郎	9番	今長谷武和
10番	阿部寛治	11番	松田國守	12番	荒牧泰範

欠席議員

地方自治法第121条の規定により出席した者

町長	三浦正	副町長	大塚哲雄
教育長	今長谷寛	総務課長	田村明広
財政課長	藤忠文	財産活用課長	熊谷重幸
会計課長		まちづくり課長	大内田幸介
税務課長	進藤功次	収納課長	花田篤
住民課長	有隅哲哉	健康課長	村瀬菊子
福祉課長	平山智久	産業観光課長	松熊大
都市整備課長	堀雅仁	上下水道課長	城戸勝範
学校教育課長	田中久善	こども育成課長	松岡秀策
社会教育課長	藤幸三	監査委員事務局長	佐伯和久

出席した議会事務局職員

局長	水江靖浩	次長	生野崇
係長	水伴秀代		

開会 午前10時00分

○議長（阿部 寛治） おはようございます。

本日は全員出席で開議は成立いたします。

なお執行部では栗原会計課長が病気のため欠席しております。

傍聴に来庁されました皆様に、本町議会に関心を持たれますことを感謝申し上げます。

傍聴の際は、皆様へ配付しております一般質問通告書一覧1ページの注意事項を熟読されまして、御協力いただきますようお願いいたします。

では、一般質問を行います。

質問者は1名でございます。

質問時間は申合せにより、答弁を除き1人30分以内とします。

この際、議員の皆様には議事進行に際してのお願いを申し上げます。

本会議では、議論が活発になることが大事であることを考えますので、多少の発言のずれは認めたいと思います。

ただし、リアルタイムで、配信を行っておりますので、質問議員も答弁者も言葉遣いに気をつけるように求めます。

発言内容を精査して、最後の日に議長判断を報告させていただきます。

御協力をお願いいたします。

それでは、質問を許可します。

質問順位1番、田辺弘之議員。

○議員（田辺 弘之） おはようございます。

今日は、私1人のために集まっただきありがとうございます。

議員8年間で、毎回毎回、一般質問をしてまいりましたが、1回だけ出来なかった。3年ぐらい前の6月議会で、申し合せて一般質問を中止しようということはありませんでしたが、何で出来なかったかという、後でお話ししますが、帯状疱疹にかかりまして、議長にお許しをいただいて休みました。

それで、私も議会最後の質問になりますが、この帯状疱疹の恐ろしさと、ワクチンの助成を本当にして欲しいと、私の体験談もお話しします。

どうか1人ですので、よろしく申し上げます。

帯状疱疹は、ほとんどの人が持つ水痘・帯状疱疹ウイルスによっておきます。

議長、マスクを外していいですか。

○議長（阿部 寛治） 外していいですよ。

○議員（田辺 弘之） これは50代以降に発症しやすく、80歳までに3人に1人がかかるとされております。

発症の主な要因は、免疫力の低下、ストレス、加齢によるものと言われており、コロナ禍では、ストレスなどの要因もあって、患者数が増えているとの報道もあります。

带状疱疹は激痛を伴うことが多いが、かかった人のうち20%が带状疱疹後神経痛となり、傷みのひどい場合は10年、一生続く場合もあるということです。

带状疱疹を未然に防ぐには、従来からある水痘、いわゆる水疱瘡ワクチン、これは生ワクチンですが、2016年に带状疱疹用のワクチンとして認可されました。2018年には不活化ワクチンが認可され、より高いデータも出ております。

2018年4月に北海道幌延町が全国で初めて、生ワクチンを1,000円で接種できる補助をし、本年2月の時点で55自治体が公費助成を実施しております。

東京都も、都全部で接種助成を行うことを決定されたという報道もございました。

平成25年に制定された、持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律の第4条3項には「健康の維持増進、疾病の予防及び早期発見等を積極的に促進する」とあります。

病になってから治療するのではなく、病を未然に防ぐという観点から、「带状疱疹を未然に防ぐために」について、以下の質問をいたします。

- 1、令和2年度もしくは令和3年度に、篠栗町の带状疱疹を発症した人数は。
- 2、带状疱疹ワクチンの効果をどのように考えるか。
- 3、带状疱疹ワクチンの周知と、接種の推進がなされているのか。
- 4、他自治体の带状疱疹ワクチン公費助成の内容は。
- 5、带状疱疹ワクチンの接種の助成についての考えは。

以上、答弁をよろしく願いいたします。

○議長（阿部 寛治） 答弁を求めます。

町長。

○町長（三浦 正） おはようございます。

田辺議員には、任期最後の議会において一般質問いただき誠にありがとうございました。

御質問は「带状疱疹予防ワクチンの助成を」ということでございます。

御質問の中にもありましたように、带状疱疹は、近年、ことに発症事例が多くなってまいりました。

発症による後遺症としての神経痛は10年間、あるいは一生続く場合もあるとの御指摘でございました。当然、その間医療機関に受診することになるわけでございますから、国保の場合であれば保険者としての篠栗町としても応分の負担増になることは明らかでございます。他の保険者においても同様でございます。

そうした観点から、発症事例が目立ってきた自治体においては、带状疱疹の発症を未然に防ぐために、ワクチン接種の補助に踏み切った自治体もだんだん増えてきたと聞き及んでおります。

そうした現状を踏まえて、御質問の各項目につきましては、健康課長が答弁をいたします。

よろしく願いいたします。

○議長（阿部 寛治） 健康課長。

○健康課長（村瀬 菊子） 健康課の村瀬でございます。

よろしく願いいたします。

1の「令和2年度もしくは令和3年度に篠栗町の带状疱疹を発症した人数は」の御質問にお答えいたします。自治体への報告する制度がないため、带状疱疹を発症した人数の把握は出来ておりません。

2の「带状疱疹ワクチンの効果をどのように考えるか」につきましては、带状疱疹ワクチンは、接種により免疫を強化することで予防します。完全に防ぐものではありませんが、一定の予防効果はあると考えております。

3の「带状疱疹ワクチンの周知と接種の推進はなされているか」につきましては、带状疱疹ワクチンの周知と接種の推進は、現在は行っておりませんが、今後、周知と接種の推進について、広報やホームページ等で行いたいと思っております。

4の「他自治体の带状疱疹ワクチン公費助成の内容は」につきましては、ワクチンに対する助成金は、糟屋地区で実施している自治体はございません。近隣では、太宰府市が助成を行っております。太宰府市におかれましては、1人1回1万円の助成を行っております。

5の「带状疱疹ワクチンの接種の助成についての考えは」につきましては、带状疱疹の予防接種は、現在、任意接種とされております。厚生労働省の審議会では、感染や重症化の予防等の観点から、带状疱疹の定期的予防接種で用いる場合に期待される効果や、疾病負荷が十分に明らかにされていないなど、安全性について議論がなされております。

よって、町といたしましては、国や他の自治体の動向を注視し、今後検討してま

います。

以上でございます。

○議長（阿部 寛治） 再質問はありますか。

はい、田辺議員。

○議員（田辺 弘之） 篠栗町の人数は分からないということでしたけれども、厚生労働省を見ても人数はとっていないみたいで、篠栗町もないということは分かるんですが、兵庫の医師会とかが30年間、また有名なところでは、九州の宮崎スタジアムといって皮膚科の先生たちが21年間データをとったものがあります。それである程度、発症率が分かると思うんですけれども。

発症率はどのぐらいか分かりますか。

○議長（阿部 寛治） 健康課長。

○健康課長（村瀬 菊子） 御質問にお答えいたします。

带状疱疹の発症には加齢が関係しており、日本人では50代から带状疱疹の発症率が高くなります。

带状疱疹大規模疫学調査データに基づきまして算出した推計値によりますと、50歳以上は約1.1%で、現在の篠栗町の人口に置き換えますと、152人と推計されます。特に、70歳以上が多いようです。

以上でございます。

○議長（阿部 寛治） 再質問は、ありますか。

どうぞ、田辺議員。

○議員（田辺 弘之） 「ワクチンの効果はどのように考えるか」ということで、具体的な答えはなかったんですけれども、ワクチンの効果はどのぐらいあるんでしょうか。

○議長（阿部 寛治） はい、どうぞ。

○健康課長（村瀬 菊子） 御質問にお答えいたします。

带状疱疹を予防するワクチンは、水疱瘡予防の生ワクチンである水痘ワクチンと、不活化ワクチンである带状疱疹ワクチンの2種類がございます。

水痘ワクチンの接種回数は1回で、効果としまして、50歳代は93.8%、60歳代は91.6%、70歳代は78.6%が水痘带状疱疹ウイルスに対する細胞性免疫が上昇したとの報告があります。

ただ、再接種は5年から7年後で、5年を超えますと、有効性は低下するとも言われております。

また、より効果の高い帯状疱疹ワクチンは、50歳以上の成人に2か月で2回接種し、帯状疱疹に対する有効性は、50歳以上で97.2%、70歳以上で89.8%あり、2回目接種後は、再接種の必要がなく、免疫の持続が9年後の時点でも確認されていると言われております。

以上です。

○議長（阿部 寛治） はい、どうぞ。

○議員（田辺 弘之） 私も、医療関係者のためのワクチンガイドラインで読んだのですけれども、最初お話しされたように、まだ、認可されたのが2016年と2018年ということで、やっぱり、はっきりしたことは、どのくらい効くかは書いてないけれど、一般的に言われるのが、生ワクチンが5年で半減するとか、それと今言われたように、不活化ワクチン、これが10年間ぐらいもつんだらうということで、あと、このワクチンの値段が、結構書いてありまして、生ワクチンのほうが安くて8,000円から1万円、これは1回で済むということですね。ただ、この生ワクチンに関しましては、2014年に、子どもの水疱瘡のワクチンが定期接種化されまして、1歳から3歳までですかね。それを使ってもいいということになったんですが、このワクチンは効果的ではあると思うのですけれども、妊婦さんとか免疫が弱い方には使えないという欠点がある。

もう1個、不活化ワクチン、これは非常にいいんですが、値段が高いんですね。2万円からだいたい2万5,000円ということで、2か月間ぐらいあけて、2回打たなくてはいけないと非常に負担が大きいということになっています。

私もいろんなお話を聞くと、「どちらを打ちましたか」と聞くと、大体この不活化ワクチンの方が多いということだったんですけども。

去年、すごく話題になったのが、PPAPで有名なピコ太郎さんを有名にした、ジャスティン・ビーバーさんという人が、帯状疱疹に罹ったということで、あっという間に認知が高くなったんです。

この人は、とてもひどくて、帯状疱疹の怖さというか、いわゆる顔面神経痛になってしまったんですね。これは、ラムゼイハント症候群とって、これにかかると、だいたい完治する人は30%ぐらい、そして、ものすごい治療をしても、治る方が60%、あとの40%は顔面神経麻痺が残るということなんです。

このジャスティン・ビーバーさんは、世界ツアーをやろうと思ったんですけども、中止いたしまして、お金も持っているのでしょうけども、この方は完治したんですが、本当に悩まれた方が多いと。

私も、帯状疱疹という名前は知っていたんですが、自分がかかるまでは、全く認識がなくて、実は、帯状疱疹にかかったときに、私の妹に電話をすると、お父さんもお母さんもかかった、妹もかかった、と。そのことさえ、なんか意識もなかったぐらい、軽い病気とっていたんです。

それで、実際、私3年前、ちょうど定例会の最初の日の夜に、左足が痛み始めまして、ものすごく痛いから、原因が分からなくて、痛風とって。

そのうち、腰も痛いから、整形外科に行って、血液検査と、それとレントゲンを撮ってもらったら、どこも悪くないと。ものすごく痛いんですよ。

あのときもお話ししましたが、もう全く寝られないです。もうどうせMRI撮らなくちゃいけないということで、一般質問の日だったんですが、議長の許可を得て、飯塚の総合せき損センターに行きました。

ガイドラインも全部見て、もう絶対、脊柱管狭窄症だと思って、タオルと洗面器を持って入院するつもりでせき損センターに行って、先生に診てもらいました。MRIをとってもらったら、そしたら、どこも悪くないと。先生に「どこが悪いんですか」と聞いても分からないから、待たせていただいてもわからないということで、最終的に、10日ぐらいかかったときに、うちの妻が「お父さん、足にポツポツが出来ている、ひよっとしたら帯状疱疹じゃないか」ということで、皮膚科に行くと、これは見事な帯状疱疹ですということ。

だいたい帯状疱疹というのは、一般的に言われているんですけども、上半身に出来やすいということで、胸のあたりとか、ひどい場合には、顔にも出たり、眼球に出て失明する場合があります。下半身にでることはあまりないということで、だいぶかかったんですけど、そのおかげで、今でもしびれが取れないというか、左足がものすごくしびれています。帯状疱疹って本当にこんなに厳しいかなと思っていました。

それで、やっぱり、この帯状疱疹の助成ということで、今、各自治体が、本当に、太宰府市も1万円を補助するとありましたけども。

今、152名ですかね、これは、かかった人かもしれませんが、名古屋市とか、ワクチンを積極的にやっているんですけども、大体、ワクチンの接種率は普通20%ぐらいなんですけども、帯状疱疹も行いまして、これは1.3%ぐらいの人が接種していると。

帯状疱疹のいいところは、ワクチンによって防げるということだと思います。

今、152人で、このワクチン、生ワクチンとして8,000円、公費助成して

いる55自治体でも、全部助成するところは、少ないんですけども、これを計算すると120万円ぐらいなんです。

それと、今ばたばたと計算すると、普通の带状疱疹は、治療費が大体平均したら4万2,000円ぐらいだそうです。そして、今さっき話しました10年間続くかもしれないとかいう、町長の答弁にもありましたけども、それに関しては治療費が13万円ぐらいかかるんですかね。それで計算すると、152人（割合）でいくと、かかった場合は治療費が900万円ぐらいかかると。

そして、この中には、会社員もいると思うんですけども、大体この带状疱疹というのは加齢で多いから、50歳以上が罹ってしまう。特に65歳過ぎると、ものすごく罹る割合が高くなるから、やっぱり、国保でやる方が非常に多いと。自治体にとっても負担になるということで、やっぱり、これは120万円で済むのだったら、1.3倍かけても、165万円ぐらいですか。

そしたら、その900万円かかるよりも非常に効率がいいと思うんですけども、それに関しては、どうでしょうか。

町長、ちょっと答えていただけますか。

○議長（阿部 寛治） はい、三浦町長。

○町長（三浦 正） まず、私の冒頭の答弁のところで申し上げましたように、自治体としては、治療費に係る国保の保険者としての負担分と、ワクチン接種による補助の負担の割合の比率をどう考えるかという今のお話のところが1番考えるポイントになるかと思っております。

もちろん、持続可能な社会保障制度の確立を図るための法律に基づく疾病予防という観点からの話でございますが、そういうことで、私どもも、まずは、ここ数年度の中で、しっかり実態を把握いたしまして、数字的に裏づけがとれたら、今のお話のようなことも考えた上で補助に踏み切ったほうが、これは将来町の負担も少なくなるということを経験した上で取り組むという流れになるかと思っております。

○議長（阿部 寛治） はい、どうぞ。

○議員（田辺 弘之） どうかよろしくお願ひします。

私も、自分の治療費を見ってみました。すぐに带状疱疹とわかれば、带状疱疹の薬って高いんです。普通、薬価が、高いものでも150円ぐらい、带状疱疹は1,300円もするんです。これを、2週間くらい飲んだら、やっぱり2万円近くなる。私は、最初、带状疱疹だと分からなかったから、せき損センターに行って、3万円ぐらい払っているんです。これは、3割負担だから、考えたら10何万円払ってい

るわけですね。

「带状疱疹とはどういう病気か」とホームページにも掲載する方向とありますけれども、最初からどういう病気なのかということをお知らせできれば、ちょっと出たら、痛んだら、ひょっとしたら带状疱疹かもしれないと、そうしたら、やっぱり医療費の負担も少なくなるということ。

もう一つは、知らしめていくというか、今、特に、2017年に、ノーベル賞をとったシカゴ大学の教授のリチャード・セイラー教授が「行動経済学」ということを言われました。何で有名になったかということ、「ナッジ」ということを、皆さん、御存じと思うんですが、何かのきっかけでとか、後押ししてあげるとか、日本語でもっと簡単というと「誘導」ですね、「どこかに誘導する」と。

だから、町の役場でも、例えば、亚克力版があって、ここにパンフレットが置いてあるとか、チラッと目がつくと、これを見てみようか、という周知の仕方とか、1番有名なのは、そこのトイレもちょっと汚いですが、この「ナッジ」を応用して、アムステルダムで、男性トイレに、あんまり汚いから横に飛ばすから、日本人は余りないと思うんですが、こうやってハエを一匹書いたんですよ。そしたら、清掃費が80%軽減されたという有名な話があります。

だから、誘導という意味では、こうやって、ホームページとかそういうもので、带状疱疹のことをしっかり書いていたら、ひょっとしたらいいかもしれないということで、大分経費が少なくなるんじゃないかと考えます。

それともう一つ、行動経済学は、マクロ経済学の主な二つの柱のうちの一つなんですけど、もう一つ「ゲーム理論」というのがあるんですね。人類史上最高の知性フォン・ノイマンという人が考えたゲーム理論、囚人のゲームとか有名なんですけども。やっぱりそのゲーム理論の中で、自治体でも今ゲーム理論を使うことが多くなっておりまして。どこに、ただいろんな利益が、こうやって、相互すると、数値的にどうやったら1番効果的なのかと。

この間の全員協議会の時に報告で、民生費が非常に上がっていると、前は25%ぐらいで、今40%、非常に予算も逼迫しておりますけども、やっぱりどこに使えるか1番効果的かと、町長も答弁で、答えていただきましたけども、やっぱり検証していただいて、少しでも「町民の命を守るささぐりづくり」、もう条例もありますが、やっぱり少しでも防げると。

最後になりますが、やはり带状疱疹が本当に怖いと思ったのは、90歳で元気な方が知人でおりまして、もうバイクをしょっちゅう乗りまわしていた高齢の方が、

帯状疱疹にかかって、あっという間に亡くなられたんですよね。

だから、やっぱり防げるものは防ぐという観点から、どうか、この帯状疱疹のワクチン、全国的にも、愛知県もこれから県のほうで考えてみようと、福岡県もなるかもしれませんけども、少しでも、やっぱり認知も高くしていただく。そして、またこういうことを防ぐという御努力も含めて、どうかよろしく願いますということ要望いたしまして、私の最後の質問とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○議長（阿部 寛治） ほかにないようですので、これをもちまして散会と致します。

散会 午前10時28分